

活動報告

2001年度 (2001年4月1日～2002年3月31日)

- ① 会報「Gift of Life」Vol.9 発行 (6月)
- ② 第11回総会 講演会及び研修会 (7月)  
「当施設における心停止ドナーからの献腎摘出法と  
献腎移植成績に影響を及ぼす諸因子について」  
講師／星長清隆氏 (藤田保健衛生大学泌尿器科教授)
- ③ 「世界移植者スポーツ大会」に協力 (8月～9月)
- ④ 神戸新聞に記事広告掲載 (10月)  
「増える腎不全抜本的治療は移植」兵庫県内53万部配布
- ⑤ 「兵庫県腎友会設立30周年記念大会」共催 (10月)
- ⑥ 「臓器移植を考える県民大会」に協力 (10月)
- ⑦ 臓器移植提供懇話会発足を支援 (2月)

- ⑧ チャリティールゴルフコンペ開催 (3月)
- ⑨ 「第13回日本サイトネフロロジー研究会」へ寄付 (3月)

2002年度 活動計画 (2002年4月1日～2003年3月31日)

- ① 会報「Gift of Life」Vol.10 発行 (7月)
- ② 第12回総会及び講演会開催 (9月)  
「ドナー・アクション・プログラム (提供者側起こし活動) - 新潟版 -」  
講師／高橋 公太氏 (新潟大学大学院腎臓泌尿器病態学分野教授)
- ③ 兵庫県臓器提供懇話会支援 (9月・2月)
- ④ 神戸新聞に記事広告掲載 (10月)
- ⑤ その他



# Gift of Life

兵庫腎疾患対策協会会報

2002. 7.

Vol. 10

発行：兵庫腎疾患対策協会  
住所：〒659-0093 芦屋市船戸4-1ラポルテ4F (安井眼科内) TEL:0797-31-8288 FAX:0797-22-6144



ご挨拶

神戸大学大学院医学系研究科  
腎臓泌尿器科学分野 教授  
兵庫腎疾患対策協会  
会長 守殿 貞夫

我が国で腎疾患にて血液透析を受けておられる方はすでに20万人を越えており、そのなかで移植を希望され待っておられる患者さんが1万5000人近くおられます。しかしながら、昨年も日本の献腎移植の数は151例で、依然として臓器提供不足の状態が続いています。本年1月には、日本臓器移植ネットワークにおける提供臓器に対するレシピエント選択基準が改定され、臓器を提供した地域のレシピエントが優先的に選ばれるようなシステムにもなりました。したがって、臓器の提供が少ない地域では、献腎移植をすることがかなり難しくなってきます。

私達の兵庫県でも、臓器提供はここ数年にわたり非常に少なく、前述のように選択基準が改定されたことにより、献腎移植はなかなかすすまないでしょう。ですから、いまここで再度臓器移植に対する意識が社会のなかでもっと根づくように、医療現場のスタッフは移植啓発にむけて努力を行なわねばなりません。そして、医療現場とともに地域社会が移植啓発にむけて活性化されることが大変重要です。今後、腎疾患対策協会としても腎移植推進にむけた積極的な活動を続けて参りたいと存じますので、御協力の程よろしくお願い申し上げます。



兵庫県移植コーディネーターに着任して

兵庫県移植コーディネーター  
赤井 しのぶ

4月1日から兵庫県移植コーディネーターとして活動を始め3ヶ月が経とうとしています。

着任するまでは、臓器移植に関する報道や新聞記事を目にしたことはあっても、実際それについて深く考えることもなく、また臓器提供意思表示カードについても、存在は知っているが所持していないという一人でもありました。医療関係者であっても、きっかけがなければ必ずしも移植医療について考える機会が与えられるわけではありません。臨床を経験した一人としてその事情も踏まえ、勉強会や講演会などを開催しそのきっかけを作っていくことも大事な活動となると考えています。

臓器移植は、善意による臓器の提供があってこそ成り立つ医療ですが、私達移植コーディネーターは、ドナーを増やすこと自体が仕事ではなく、県民の方々に移植医療につ

いて広く知っていただき、「あげたい」「あげたくない」「もらいたい」「もらいたくない」という4つの意思がそれぞれ尊重される中で、「あげたい」「もらいたい」方々の橋渡しを担うことだと考えています。そのためにも、“いのちについて考える”県民への講演会及び学校教育への参加などの取り組みも必要となってくるでしょう。

着任して以来この3ヶ月間、活動を進めるために移植医療の厳しい現状が耳に届きます。兵庫県における腎移植希望者は546名(2月28日現在)。しかし昨年度の献腎移植の件数は、提供件数が2件、移植件数が4件というのが現状です。この現状を深く受け止め、今後の普及啓発のあり方について見直ししなければならない時期にきていることを感じています。今までは違った角度からアプローチしていくことができないか試行錯誤しながら進めているところです。

2002～3年度 兵庫腎疾患対策協会 役員・幹事 (候補者)

神戸大学大学院医学系研究科 腎臓泌尿器科学分野 教授 赤井 しのぶ	神戸大学大学院医学系研究科 腎臓泌尿器科学分野 助教授 荒川 創一	神戸大学大学院医学系研究科 腎臓泌尿器科学分野 助教授 川 瀬 喬	神戸大学大学院医学系研究科 腎臓泌尿器科学分野 助教授 後 藤 武 男	国立西宮病院腎移植センター部長 福 西 孝 信
兵庫腎移植コーディネーター 赤井 しのぶ	兵庫医科大学腎臓泌尿器科教授 島 博 基	兵庫腎移植の会 会長 川 瀬 喬	高砂市民病院名譽院長 後 藤 武 男	国際ソロプチスト神戸東 坂 井 瑞 実
兵庫医科大学腎臓泌尿器科教授 島 博 基	兵庫医科大学名譽教授 杉 本 照 子	兵庫医科大学腎臓泌尿器科教授 高 光 義 博	国際ソロプチスト神戸東 田 口 隆 子	三田 寺 脇 泌尿器科医院 寺 脇 一 徳
兵庫腎友会会長 豊 永 清	甲南病院院長 内 藤 秀 宗	国際ソロプチスト神戸東 八 馬 富 久 子	神戸大学大学院医学系研究科 腎臓泌尿器科学分野 講師 藤 澤 正 人	国際ソロプチスト神戸東 安 井 多 津 子
救命救急センター副部長 吉 永 和 正	兵庫医科大学相談役 播 磨 大 塚 病 院 院 事 長 芳 野 芳 一	国際ソロプチスト 神戸東 泉 健 生 社 委 員 長		
長久天満診療所 会 計 監 査 長 久 謹 三	国際ソロプチスト 神 戸 東 会 長	事務局 長 安 井 多 津 子		

## 腎不全への道しるべ 尿中微量アルブミン

(財) 尼崎健康・医療事業財団  
市民開発センター ハーテ21 所長  
兵庫腎疾患対策協会の  
副会長 藤岡 農 宏

私がまだ今よりずっと若くて、県立尼崎病院で臨床医の使命感に燃えて仕事をしていた頃です。毎日色々の内科の病気の診療の中では、沢山の慢性腎炎の患者さんのお世話もしていました。その頃に抱いた腎臓病治療の日々の思いは、何十年もたった今でも忘れることは出来ません。検査をしている間はまだいいのですが、その結果が出て慢性腎炎に対して的確な薬剤は有りません。ひたすら食事療法の重要性をお話して、仕事や生活上の無理をしないようにと言いつけるのが、私達のせい一杯の出来る事でした。

何故この病気が起こるのだろうか、どうしたら進行が止められるのか、慢性腎不全になればどうすれば良いのか、答えの得られない中で効果的な治療手段を持たないのは、患者さんにとっては勿論、医師にとっても形容出来ない苦しみでした。病勢が進むと顔や足に浮腫が現れてくるのですが、食事療法だけでは十分の効果を上げる事は出来ません。辛抱出来なくなって利尿剤を使えば、確かに浮腫が一時的には改善するのですが、腎機能が必ずじわりと悪化するのが常でした。

40年近く前でしょうか、血液透析という治療法が開発されたと聞いて、これは福音だと思って早速病院に機械を持って来て貰いました。風呂桶のような大きなタンクが印象に残っています。それからコルフ型やキール型、さらにホローファイバー型と開発改良が進んで今日に至ります。日本では腹膜透析も含めて腎臓病の治療にコール透析という感さえ有ります。果たしてこれで良いのでしょうか。慢性腎炎の病型分類は確立されても進行を止める手立てには乏しく、腎移植も社会問題の足かせがあって遅々として進んでいません。

2000年には透析が導入された方々の病気の統計の中で、ついに言うべきでしょうか、糖尿病が(36.6%)慢性腎炎(32.5%)を上回って第一位になりました。透析医療が始まった頃には、私達医療者でさえ考えもしなかったことです。高齢化社会の到来とともに糖尿病性腎症が増え、血糖コントロールが悪いと腎機能が悪化して腎不全になります。糖

尿病の大部分は過食肥満によるⅡ型糖尿病ですから、生活習慣を変えて厳重な血糖コントロールをすれば、腎炎と違って腎不全になるのを防ぐことが出来ると思われま

す。高齢者社会の到来とともに、透析導入患者さんの高齢化の問題も有ります。2000年導入全例の52.5%が65才以上の方で占められています。Ⅱ型糖尿病からの腎症が悪化するのほとんどが高齢者になってから、その他に加齢とともに起こる腎硬化症からの導入例も増えました。動脈硬化が進むと血圧の上昇が起こりますが、高血圧が腎臓の機能を傷害して慢性腎炎などの腎の病気を進行させます。逆に腎疾患があれば血圧が上昇するので、両者の間に悪循環が起こることになります。

腎不全になられた方には万全の透析医療を普及させ、同時に一例でも多くの腎移植例を増やすことに専念すべきだと思います。しかし、私達の目指すもう一つの目標は透析導入に至らないためにはどうするかです。糖尿病腎症の進展阻止には血糖コントロール、高血圧には血圧コントロールが最も重要な事は当然ですが、加えるに糖尿病の進展を防ぐためには、勿論食事などの生活習慣に最大の配慮が必須です。慢性腎炎の食事療法も古典となってまだ生きています。

私が一番注目しているのが、尿中の微量アルブミンの定量検査です。この検査は初期の指標としてたいへん良い検査と考えていますので、現在仕事をしている尼崎市民健康開発センターで検診にも採用しようかと検討中です。糖尿病腎症の前触れとしてかなり初期からの検査は陽性になり、高血圧による腎障害が有るときにも陽性になります。尿中微量アルブミンを指標にして警鐘を鳴らし、腎不全への警告の道しるべにすべきです。残念ながらこの検査が陽性になれば、思い切ってライフスタイルを変えることが必要だと思います。

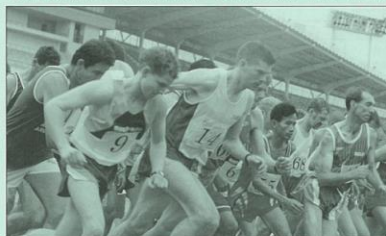
腎移植の普及も勿論私達の大事な事業です。しかし、私達の協会の名前は腎疾患対策協会です。腎不全になる患者さんを一人でも少なくする方法を世に広める事も、腎疾患対策のネーミングに花を添えるのではないのでしょうか。

## 「第13回世界移植者スポーツ大会」 開催とその意義について

「兵庫腎移植の会」会長  
(前「第13回世界移植者スポーツ大会組織委員会」事務局勤務)  
川 瀬 喬

昨年夏、我国で初めての臓器移植者(以下、移植者)のオリンピックである「第13回世界移植者スポーツ大会」(以下、大会)が神戸市中心に行われました。

大会は8月25日～9月1日までの8日間、天候に恵まれて盛大に開催し、大した怪我もなく無事に終了出来ました。大会は世界48の国・地域から826名(内日本145名)の選手と411名(内日本101名)のご家族と「ドナー・ドナーファミリー」(以下、「ドナーファミリー」)の方達が参加しました。選手達は11の競技を9つの会場に分れて行いました。



▲8/26 男子ミニマラソンのスタート(ユニバー記念競技場)

中でも、開会式での「ドナーファミリー」の行進は今まで経験した事がない素晴らしいものでした。その時、私(献腎移植者)だけでなく選手と観客が全員総立ちとなって「ドナーファミリー」の「Gift of Life」に対して感謝というより敬愛の念を込めて一杯拍手していた事を思い出します。また、各競技場では、移植した選手達が再びスポーツが出来る喜びを「ドナーファミリー」への感謝の意も込めて、観客に対して身体全体でアピールしました。また、「ドナー・ドナーファミリー」への感謝の集いは競技種目とは別に開催した事も特筆すべき事でした。我国で始めて臓器提供者である「ドナーファミリー」(内外から55名参加)と「移植者」(約200名)が直接会う事が出来たのです。このイベントは、大会参加の移植者達が自分達に贈られた「Gift of Life」への感謝の気持ちを内外から参加した「ドナーファミリー」の方達に伝え、相互の連帯を深める事を目的に行いました。

大会ボランティアの参加が大会成功に大きく寄与した事も大切な事でした。そのボランティアについて、競技面では各競技団体役員(延べ694名)が、また各会場では多数のボランティア(語学を主体に延べ2550名)が夫々の役割をこなして頂きました。私達事務局スタッフが大会運営面では素人同然だった事も有り、対応し切れない場面も幾つもありました。その場面では、経験豊富なボランティアの方達にリカバリーして頂きました。

大会の目的については以下の4つがあります。①「臓器移植を受けた事により健常者と変わらない生活ができる事を表現する。」②「同じ病で苦しむ人達に大きな希望を示す。」③「臓器を提供して下さった方への感謝の意を示す。」④「より多くの人達に臓器提供を呼びかける。」等です。この内、大会では、①②③につき僅かではありますが表せたとはいえますが、④の臓器移植の普及・啓発活動は残念ながら今後の私達の課題として残りました。

あの命の躍動を実感した大会からもう1ヶ年間が経とうとしています。世界の移植者が集うスポーツの祭典は終了しましたが、我国で、しかも地元の神戸で開催された事の意義を問われるのは、むしろこれからだと思えます。大会開催が我が国、及び、地元での移植医療の今後の発展について、よい契機となる事が期待されているのです。我国では、歴史のある欧米の様に移植医療が一般医療としてはまだ定着していません。特殊な医療として扱われています。私に分っている事は、移植医療の中心的役割は「コーディネーター」と「ボランティア活動」が市民社会に根づいている事です。幸いというか、地元(神戸市、兵庫県)では震災後、市民によるボランティア活動が根づきつつあります。また、神戸市では、「医療産業都市」を目指しております。今後、私達はその市民ボランティア活動との交流にも目を向けて、市民社会の中で幅広い観点に立った移植の普及・啓発を進める事が必要ではないかと思っています。



▲9/1 開会式後のスナップ(ユニバー記念競技場)

最後に、大会の開催に際して「兵庫腎疾患対策協会」から心温まるご高配を賜りました。具体的に申しますと、大会の共催団体として、大会の組織委員の一員として守殿会長には大会運営面で大変お世話になりました。また、資金面の助成においても大会開催前に留まらず、大会終了後も苦しい財政事情をご勘案頂きご寄付のご援助を賜りました。あらためて、この紙面をお借りして協会会員の皆様方へ心からお礼を申し上げます。

### 第12回 総会・懇親会のご案内

開催日…平成14年9月1日(日)

**総会** ホテルオークラ神戸 曜の間  
14:30 総会  
15:00 講演会 講師/高橋 公太氏  
(新潟大学大学院腎臓病学分野教授)  
↳ 「ドナー・アクション・プログラム」  
16:00 (提供者様へのご活動) - 新潟版 -

**懇親会** コンチェルト ディナークルージング  
17:00 乗船(神戸ハーバーランドモザイク)  
17:10 出航  
明石大橋往復  
中華ハイキング(フリードリンク)  
18:55 帰港  
懇親会費 1名 ¥7,000-

